

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
【部門区分】第6部門第1区分  
【発行日】平成26年1月23日(2014.1.23)

【公開番号】特開2012-122968(P2012-122968A)  
【公開日】平成24年6月28日(2012.6.28)  
【年通号数】公開・登録公報2012-025  
【出願番号】特願2010-276125(P2010-276125)  
【国際特許分類】

G 0 1 N 21/27 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 21/27 Z

【手続補正書】

【提出日】平成25年12月3日(2013.12.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

複数のグループの中から、入力された入力分光データに対応するグループを判別する情報処理装置であって、

前記複数のグループそれぞれに属する複数の参照分光データに対して主成分分析を行うことによって得られる主成分データを入力する入力手段と、

前記複数のグループそれぞれについて、前記主成分データを用いて前記入力分光データを近似することにより得られる近似分光データと前記入力分光データとの差を算出する算出手段と、

前記算出手段により算出された差から、前記入力分光データに対応するグループを判別する判別手段と

を有することを特徴とする情報処理装置。

【請求項2】

前記判別手段は、前記算出手段により算出された差が最小となるグループを、前記入力分光データに対応するグループであると判別することを特徴とする請求項1に記載の情報処理装置。

【請求項3】

前記算出手段は、前記参照分光データの次元数よりも少ない次元数の主成分データを用いて近似することにより得られる近似分光データと前記入力分光データとの差を算出することを特徴とする請求項1に記載の情報処理装置。

【請求項4】

前記参照分光データの次元数は3であることを特徴とする請求項3に記載の情報処理装置。

【請求項5】

前記差は、RMS誤差であることを特徴とする請求項1に記載の情報処理装置。

【請求項6】

前記算出手段は、閾値を下回る最小の主成分数の主成分データを用いて近似することにより得られる近似分光データと前記入力分光データとの差を算出することを特徴とする請求項1に記載の情報処理装置。

【請求項7】

前記差は、複数の波長の差分であることを特徴とする請求項 1 に記載の情報処理装置。

【請求項 8】

複数のグループの中から、入力された入力分光データに対応するグループを判別する情報処理装置が実行する情報処理方法であって、

前記複数のグループそれぞれに属する複数の参照分光データに対して主成分分析を行うことによって得られる主成分データを入力する入力ステップと、

前記複数のグループそれぞれについて、前記主成分データを用いて前記入力分光データを近似することにより得られる近似分光データと前記入力分光データとの差を算出する算出ステップと、

前記算出ステップにおいて算出された差から、前記入力分光データに対応するグループを判別する判別ステップと

を含むことを特徴とする情報処理方法。

【請求項 9】

コンピュータを、

複数のグループそれぞれに属する複数の参照分光データに対して主成分分析を行うことによって得られる主成分データを入力する入力手段と、

前記複数のグループそれぞれについて、前記主成分データを用いて、入力分光データを近似することにより得られる近似分光データと前記入力分光データとの差を算出する算出手段と、

前記算出手段により算出された差から、前記入力分光データに対応するグループを判別する判別手段と

して機能させるためのプログラム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

本発明の情報処理装置は、複数のグループの中から、入力された入力分光データに対応するグループを判別する情報処理装置であって、前記複数のグループそれぞれに属する複数の参照分光データに対して主成分分析を行うことによって得られる主成分データを入力する入力手段と、前記複数のグループそれぞれについて、前記主成分データを用いて前記入力分光データを近似することにより得られる近似分光データと前記入力分光データとの差を算出する算出手段と、前記算出手段により算出された差から、前記入力分光データに対応するグループを判別する判別手段とを有することを特徴とする。